

令和2年9月 磐田市議会定例会の内容 ※抜粋してお知らせします

●9月補正予算（第5号）

歳入歳出予算それぞれに31億1,471万2,000円を追加し、総額を888億5,664万円とする。

- ・磐田市急患センターの施設改修 事業費 10,341,000円
クリーンパーテーション・自動支払機・呼出機など 改修費 10,341,000円 慰労金 702,000円
- ・高齢者のインフルエンザ予防接種の接種勧奨 事業費 51,012,000円
65歳以上の高齢者に、インフルエンザ予防接種費用の一部を助成します。
対象者12,771人×3,977円≒50,791,000円 啓発用印刷製本費 221,000円
- ・地域雇用支援事業 事業費 11,500,000円
中小企業等が行う人材確保に対する補助金
事業者に正規雇用1人当たり20万円支給（20万円×50名予定）
介護サービス分野採用者に入社支度金5万円支給（5万円×30名）
- ・証明発行等窓口におけるキャッシュレス決済の導入 事業費 4,422,000円
決済確認用端末通信料 92,000円 キャッシュレス決済手数料 40,000円
POSレジシステム改修委託料 4,290,000円

●海岸堤防整備に対する寄附金の受け入れ及び基金への積み立て

- ・株式会社スズキ様より寄付を受け入れ、基金へ積み立てます。
寄付額 2,800,000,000円
市の防災対策事業に対し、同社からは平成26年2月からこれまで6回にわたり計7,000万円の寄附をいただいております。今回の寄附に当たっても、市民や市内で働く方々の安心安全のために防潮堤整備の推進へ協力していくということで、同社の地域貢献、社会貢献の意向によるものと考えます。防潮堤整備事業は海拔14メートルの防潮堤を全長およそ11キロメートルにわたり建設するもので、今年度末までに約2.9キロメートル（全体の約28%）が完成する予定です。

●静岡県からの委託事業として実施するモデル日本語教室の設置・運営

事業費 1,188,000円
本市は人口に対する外国人比率が県内5位と比較的上位であることや、既に日本語教室を運営する中でスキルを蓄積している団体があることから、多文化共生推進事業のモデル市として選定されたものと認識します。文化庁の事業を県が方針を決め、本市がモデル事業として日本語初心者の方を対象に行うもので、学習支援員のほか、地域の方々にボランティアとして携わっていただくことで地域住民との交流も視野に入れた事業となります。

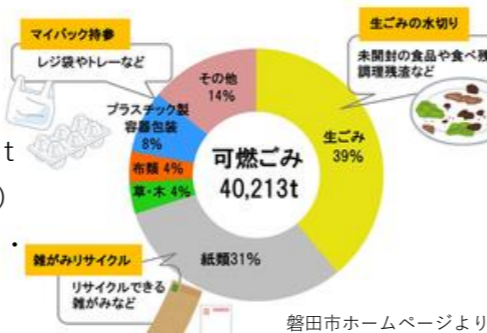
★11月定例会（一般質問）に向けて・・・ごみの減量化について

磐田市の可燃ごみの排出量、ご存じですか？

平成29年度：24,137 t、平成30年度：24,257 t、令和元年度：24,132 t
1人1日あたりのごみ排出量 令和元年度：726g（ごみ総排出量÷人口）

生ごみは約80%が水分といわれています。重量があり、腐敗すると悪臭・害虫等が発生しとても不衛生です。まずは水分を減らすためにひと手間掛けるなど、一人ひとりが環境に配慮した生活を心掛けたいものです。

次回一般質問では、SDGsの目標12「つくる責任とつかう責任」 「磐田市家庭ごみ10%減量化作戦」を提案していこうと準備をしています。循環型社会形成へ向けより一層のごみ減量化を推進するために、皆様のご意見をお聞かせください。



あしかわ和美 活動報告



★磐田市子育てコミュニティくっついた！

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、母親教室・離乳食教室が開催されない、立ち合い出産ができないなど、特に初めての出産を控えたお母さんたちは不安を抱えています。

産前産後の親子を中心に、様々な年代・地域住民を巻き込み「共育」を柱に「タッチとハグ」を浸透させた子育て支援活動をしている『くっついた！』さんのオンライン講座を紹介します。

マタニティタッチの優しい講座、質問タイム等もあり、皆さんからの確かなアドバイスを頂き安心されたと思います。今は逢えないけど、繋がる・寄り添うことの大切さ、そして情報共有の必要性を再確認しました。参加させていただきありがとうございました。磐田市をはじめ、浜松市、袋井市など静岡県西部を中心に居住・活動している子育て中のパパ・ママ、子育て支援をしたい人、子育てに関わりたい人。この方々をつなげ、みんなで子育てができる。そんな地域を目指して活動をしています。 詳細はコチラ → くっついた！ <https://pitari.hamazo.tv/>



かずみのみみ



最近ニュースでよく聞くけど・・・

『GIGAスクール構想』って、いったい何??

GIGA …『Global and Innovation Gateway for All』の略
児童生徒向けに、1人1台の端末と通信ネットワークを整備し、全国の学校で持続的に実現させる構想です。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け、文部科学省はGIGAスクール構想を早期実現するための支援などを積極的に推進すると表明しました。

日本の学校は、自治体によって差はありますがICT（情報通信技術）環境の整備が遅れているのが現状です。しかし、これからの時代を生き抜くには従来の教育だけではなく先端技術の活用が必須であり、ICT教育を全ての児童生徒に継続して行う必要があります。

磐田市でもGIGAスクール構想に掲げる「ネットワーク整備」と「1人1台学習用端末」の整備は着々と進んでいます。ICTを活用した学習環境を緊急に実現する必要があることから、4年間かけて整備する予定であったタブレット端末約14,000台分（教員授業用端末含む）を、予定を前倒して令和2年度から令和3年度にかけて整備します。

★LTE環境（スマートフォンや携帯電話用の無線通信規格）

クラウド型学習ソフトを採用

令和2年度 小学4年生～中学3年生まで

… ノートパソコン

令和3年度 小学1年生～小学3年生まで

… iPad



ノートパソコン Chromebook（クロームブック）